

2014年7月22日
株式会社損害保険ジャパン
株式会社 JSOL

「農業生産者向け収入安定化サービス」の共同開発を開始

株式会社損害保険ジャパン（代表取締役社長：櫻田 謙悟、以下「損保ジャパン」）と、株式会社 JSOL（代表取締役社長：中村 充孝、以下「JSOL」）は、両社がこれまで蓄積してきた自然災害に対する保険引受けや農業分野における知見等を活かし、「農業生産者向け収入安定化サービス」の共同開発を7月22日から開始します。

1. 背景と目的

現在の農業分野は、生産や販売形態の多様化が進んでいますが、一方で、自然環境下での不安定な収穫量や需給が農業全体の発展において大きな課題となっております。また、「農業の6次産業化^{※1}」を推進するうえで、生産管理の精緻化がその成否の要点となっております。

JSOL は、農業生産者の「収穫予測モデル^{※2}」を独自に開発し、多種多様なデータ解析を継続し、これまでになかった高精度の「収穫予測モデル」を開発しています。これは、過去の農業において解決されなかったさまざまなリスクとコストの低減を可能とするもので、例えば収穫に最適な日と収穫量を事前に高精度で予測することで、効率的な人員確保や、市場価格変動に合わせた計画生産を実現し、農業生産者の収入を高めることができます。

このたび両社は、この予測技術をさらに補完し農業生産者の収入安定化を目的として、「農業生産者向け収入安定化サービス」の共同開発を行うこととしました。

※1 「農業の6次産業化」とは、第1次産業の農畜産物・水産物の生産だけでなく、第2次産業の食品加工業、第3次産業の流通・販売にも農業生産者が主体的かつ総合的に関わることによって、加工賃や流通マージンなどを得ることにより、農業を活性化させる取組みです。

※2 「収穫予測モデル」とは、収穫時期や収穫量を田畑単位で予測可能としたモデルです。JSOL は農業生産者と提携し、各種データの解析を進め、ロジックの検証・修正を繰り返す行うことで、これまでになく精度の高い予測モデルの開発、システム化に成功しています。

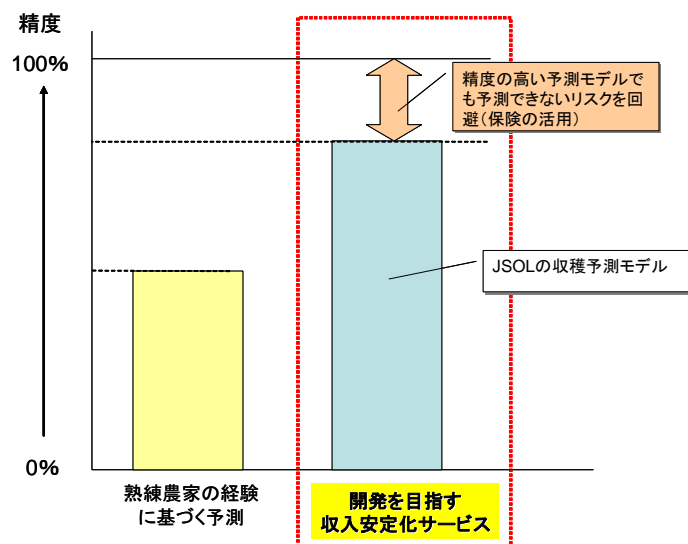
2. 「農業生産者向け収入安定化サービス」の特長

(1) 内容

JSOL の精度の高い収穫予測モデルと損保ジャパンの損害保険を組み合わせた、農業生産者の収入安定化を支援するサービス。一般の熟練農家の経験に基づく収穫予測の精度と比べても、JSOL の収穫予測モデルは科学的根拠に基づいて、それを上回る高い精度で予測を行うことが可能です。この予測が外れた場合のリスク

回避を可能とする保険を合わせたサービスの開発を行います。

<イメージ図>



(2) 開発スケジュール (予定)

- (トライアル) 2014年の冬野菜収穫期に合わせて順次開始 (11月~)
- (本格展開) 2015年中

3. 今後の展開

両社は、「農業生産者向け収入安定化サービス」を活用し、日本の農業生産者が抱える課題を解決し、日本の農業の発展に寄与することを目指します。

また、本サービスを「メイド・イン・ジャパン」の取組みとして、世界へ発信することも検討していきます。

以上